

四 半 期 報 告 書

(第 72 期第 3 四半期)

東洋水産株式会社

目 次

頁

【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	2
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
3 【経営上の重要な契約等】	3
第3 【提出会社の状況】	4
1 【株式等の状況】	4
2 【役員の状況】	5
第4 【経理の状況】	6
1 【四半期連結財務諸表】	7
2 【その他】	13
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	14

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月13日
【四半期会計期間】	第72期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	東洋水産株式会社
【英訳名】	TOYO SUISAN KAISHA, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 今村 将也
【本店の所在の場所】	東京都港区港南二丁目13番40号
【電話番号】	東京（03）3458-5111（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 松本 千代子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南二丁目13番40号
【電話番号】	東京（03）3458-5111（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 松本 千代子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第3四半期 連結累計期間	第72期 第3四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	306,121	313,898	401,064
経常利益 (百万円)	21,655	24,305	26,169
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	14,736	17,247	18,438
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	18,514	15,290	23,124
純資産額 (百万円)	303,118	314,704	307,729
総資産額 (百万円)	387,649	400,587	390,190
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	144.30	168.88	180.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	75.36	75.74	76.02

回次	第71期 第3四半期 連結会計期間	第72期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	60.78	75.16

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出が引き続き弱含む中で、製造業を中心に弱さが一段と増しているものの、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調で推移しましたが、通商問題や海外経済の動向、金融資本市場の変動に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向により景気が下振れするリスクも依然として存在しております。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は313,898百万円（前年同四半期比2.5%増）、営業利益は21,887百万円（前年同四半期比10.6%増）、経常利益は24,305百万円（前年同四半期比12.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17,247百万円（前年同四半期比17.0%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の為替換算レートは、109.54円/米ドル（前第3四半期連結累計期間は、111.02円/米ドル）であります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 水産食品事業

水産食品事業は、主力商品の鮭鱒・魚卵等における市況変動の影響や国内外の近海魚の漁獲不良による魚価高騰が見られる中、コンビニエンスストアや量販店向けに適正価格での販売に努めましたが、競争の激化もあり販売数量が減少しました。その結果、売上高は22,966百万円（前年同四半期比0.7%減）、セグメント損失は209百万円（前年同四半期はセグメント利益251百万円）となりました。

② 海外即席麺事業

海外即席麺事業は、米国では大手得意先の店舗毎に実施した特売に加え、定期的な特売や新規得意先への販売もあったことにより、主力商品の袋麺「Ramen」シリーズ、カップ麺「Instant Lunch」シリーズが好調に推移し増収となりました。メキシコでは主力商品のカップ麺が堅調な動きだったことに加え、販売強化している袋麺が好調に推移し、増収となりました。その結果、売上高は65,544百万円（前年同四半期比6.9%増）、セグメント利益は、人件費等の増加はありましたが、販売数量の増加、販売促進費の抑制、物流費の削減、主原料単価安による原材料費の減少等により8,682百万円（前年同四半期比28.1%増）となりました。

③ 国内即席麺事業

国内即席麺事業は、生産・供給コストが上昇する中で、お客様にご満足いただける品質の商品を安定的にお届けするため、2019年6月より価格改定を実施いたしました。このような状況の中、カップ麺では「赤いきつねうどん」「緑のためき天そば」等の和風シリーズ、「麺づくり」シリーズ、「MARUCHAN QTTA」シリーズ等の基幹商品を中心に様々なプロモーションで市場活性化に取組んだことに加え、「赤いたぬき天うどん」「赤いきつね焼うどん」といった新商品、湯切りタイプを発売した「マルちゃん正麺カップ」シリーズ、また「ごつ盛り」シリーズも好調に推移し、増収となりました。袋麺では「マルちゃん正麺」シリーズを中心に需要喚起に努めたことにより、ほぼ前年並みの推移となりました。その結果、売上高は100,581百万円（前年同四半期比2.3%増）、セグメント利益は、人件費、物流費等の増加はありましたが、売上高の増加や販売促進費の抑制により8,646百万円（前年同四半期比26.6%増）となりました。

④ 低温食品事業

低温食品事業は、生産・供給コストが上昇する中で、お客様にご満足いただける品質の商品を安定的にお届けするため、2019年4月より価格改定を実施いたしました。このような状況の中、生麺では期間限定商品の発売や消費者キャンペーン等を実施した「マルちゃん焼そば3人前」シリーズやラーメンカテゴリーが好調に推移したことに加え、今期から全国に販売エリアを拡大した水でほぐすだけの「つるやか」シリーズ、野菜がおいしく食べられる「パリパリ無限」シリーズが大きく伸ばしたことにより、増収となりました。チルド・冷凍食品類では、主力商品のしゅうまい、ライスバーガーは減収となりましたが、市販用の「冷凍麺焼そば」、業務用冷凍麺等が好調に推移しました。その結果、売上高は54,243百万円（前年同四半期比2.8%増）、セグメント利益は、人件費、物流費等の増加はありましたが、売上高の増加により4,126百万円（前年同四半期比12.5%増）となりました。

⑤ 加工食品事業

加工食品事業は、米飯やフリーズドライ商品では市場拡大を捉えるべく生産能力の向上に努めております。米飯では無菌米飯の「あったかごはん」シリーズと「ふっくら赤飯」等の味付米飯シリーズ、フリーズドライ商品では5食入り袋スープ「素材のチカラ」シリーズ等の主力商品の販促企画に加え、新商品の投入にも努めました。その結果、売上高は17,693百万円（前年同四半期比2.8%増）、セグメント損失は、新工場稼働に伴う減価償却費等の増加により983百万円（前年同四半期はセグメント損失590百万円）となりました。

⑥ 冷蔵事業

冷蔵事業は、2019年1月に埼玉杉戸物流センター及び神戸物流センターが稼働したことにより庫腹量が増加したことに加え、冷凍食品を中心とした取扱いや通関・運送等の付帯業務の取扱いが堅調に推移しました。その結果、売上高は15,712百万円（前年同四半期比11.4%増）、セグメント利益は、新冷蔵庫稼働に伴う減価償却費、人件費等の増加により1,108百万円（前年同四半期比34.4%減）となりました。

⑦ その他

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は37,156百万円（前年同四半期比5.3%減）、セグメント利益は1,090百万円（前年同四半期比33.9%減）となりました。

当第3四半期連結会計期間末の当社グループの総資産は400,587百万円で、前連結会計年度末に比べ10,396百万円（2.7%）増加しました。当第3四半期連結累計期間における資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ7,487百万円（3.7%）増加し、210,785百万円となりました。これは主に、有価証券が14,000百万円減少しましたが、現金及び預金が13,584百万円、受取手形及び売掛金が12,536百万円増加したことによるものであります。

② 固定資産

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2,909百万円（1.6%）増加し、189,801百万円となりました。これは主に、投資有価証券が1,337百万円減少しましたが、建物及び構築物が1,579百万円、建設仮勘定が2,584百万円増加したことによるものであります。

③ 流動負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べ4,286百万円（8.0%）増加し、58,157百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が1,741百万円、未払費用が2,318百万円増加したことによるものであります。

④ 固定負債

固定負債は、前連結会計年度末に比べ865百万円（3.0%）減少し、27,725百万円となりました。これは主に、その他固定負債が761百万円減少したことによるものであります。

⑤ 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ6,975百万円（2.3%）増加し、314,704百万円となりました。これは主に、利益剰余金が9,077百万円増加したことによるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,420百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	427,000,000
計	427,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	110,881,044	110,881,044	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	110,881,044	110,881,044	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	110,881	—	18,969	—	20,155

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 8,703,400	—	—
	（相互保有株式） 普通株式 222,000	—	
完全議決権株式（その他）	普通株式 101,895,700	1,018,957	—
単元未満株式	普通株式 59,944	—	—
発行済株式総数	110,881,044	—	—
総株主の議決権	—	1,018,957	—

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
（自己保有株式） 東洋水産㈱	東京都港区港南 二丁目13番40号	8,703,400	—	8,703,400	7.85
（相互保有株式） 仙波糖化工業㈱	栃木県真岡市並木町 二丁目1番10号	222,000	—	222,000	0.20
計	—	8,925,400	—	8,925,400	8.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	86,280	99,865
受取手形及び売掛金	54,432	66,969
有価証券	32,000	18,000
商品及び製品	19,168	16,063
仕掛品	332	313
原材料及び貯蔵品	6,722	6,851
その他	4,990	3,377
貸倒引当金	△628	△654
流動資産合計	203,298	210,785
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	71,773	73,353
機械装置及び運搬具（純額）	35,599	35,943
土地	35,622	35,583
リース資産（純額）	2,707	2,568
建設仮勘定	5,722	8,307
その他（純額）	1,350	1,250
有形固定資産合計	152,776	157,006
無形固定資産		
その他	1,604	1,523
無形固定資産合計	1,604	1,523
投資その他の資産		
投資有価証券	30,409	29,072
繰延税金資産	1,165	1,199
退職給付に係る資産	75	67
その他	860	932
投資その他の資産合計	32,511	31,271
固定資産合計	186,891	189,801
資産合計	390,190	400,587

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,320	28,062
短期借入金	644	325
リース債務	254	288
未払費用	21,111	23,430
未払法人税等	1,909	3,166
役員賞与引当金	74	79
その他	3,555	2,804
流動負債合計	53,870	58,157
固定負債		
リース債務	3,664	3,741
繰延税金負債	3,476	3,243
役員退職慰労引当金	302	317
退職給付に係る負債	18,899	18,969
関係会社事業損失引当金	28	—
資産除去債務	216	212
その他	2,002	1,241
固定負債合計	28,590	27,725
負債合計	82,461	85,883
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,942	22,942
利益剰余金	252,891	261,968
自己株式	△8,228	△8,230
株主資本合計	286,574	295,650
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,853	8,738
繰延ヘッジ損益	△1	7
為替換算調整勘定	2,054	697
退職給付に係る調整累計額	△1,843	△1,686
その他の包括利益累計額合計	10,063	7,757
非支配株主持分	11,090	11,296
純資産合計	307,729	314,704
負債純資産合計	390,190	400,587

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	306,121	313,898
売上原価	192,728	197,511
売上総利益	113,393	116,387
販売費及び一般管理費	93,595	94,499
営業利益	19,797	21,887
営業外収益		
受取利息	1,200	1,526
受取配当金	438	461
持分法による投資利益	125	118
雑収入	667	712
営業外収益合計	2,431	2,819
営業外費用		
支払利息	189	185
貸倒引当金繰入額	191	—
雑損失	191	216
営業外費用合計	573	401
経常利益	21,655	24,305
特別利益		
固定資産売却益	10	2
投資有価証券売却益	232	—
補助金収入	250	93
受取保険金	56	33
その他	24	35
特別利益合計	574	164
特別損失		
固定資産除売却損	262	283
減損損失	176	10
災害による損失	128	29
その他	48	18
特別損失合計	616	342
税金等調整前四半期純利益	21,613	24,127
法人税、住民税及び事業税	5,526	6,391
法人税等調整額	899	146
法人税等合計	6,426	6,537
四半期純利益	15,187	17,589
非支配株主に帰属する四半期純利益	450	342
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,736	17,247

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	15,187	17,589
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△884	△1,153
繰延ヘッジ損益	17	9
為替換算調整勘定	4,019	△1,356
退職給付に係る調整額	204	173
持分法適用会社に対する持分相当額	△29	28
その他の包括利益合計	3,327	△2,299
四半期包括利益	18,514	15,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,342	14,941
非支配株主に係る四半期包括利益	171	348

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

次の保証先について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
従業員	11百万円	7百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	10,062百万円	10,928百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	3,065	30	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金
2018年10月31日 取締役会	普通株式	3,065	30	2018年9月30日	2018年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	4,087	40	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金
2019年10月31日 取締役会	普通株式	4,087	40	2019年9月30日	2019年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	23,138	61,307	98,351	52,778	17,212	14,100	266,890	39,231	306,121	-	306,121
セグメント間の内部 売上高又は振替高	799	-	-	-	-	794	1,593	67	1,661	△1,661	-
計	23,938	61,307	98,351	52,778	17,212	14,894	268,483	39,299	307,782	△1,661	306,121
セグメント利益又は 損失(△)	251	6,778	6,831	3,667	△590	1,690	18,627	1,648	20,276	△479	19,797

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△479百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△889百万円、棚卸資産の調整額24百万円及びその他の調整額386百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に決算時における海外子会社からのノウハウ料相殺消去額であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が乏しいため記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	22,966	65,544	100,581	54,243	17,693	15,712	276,741	37,156	313,898	-	313,898
セグメント間の内部 売上高又は振替高	707	-	-	-	-	907	1,614	23	1,637	△1,637	-
計	23,673	65,544	100,581	54,243	17,693	16,619	278,355	37,180	315,536	△1,637	313,898
セグメント利益又は 損失(△)	△209	8,682	8,646	4,126	△983	1,108	21,370	1,090	22,460	△573	21,887

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△573百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△930百万円、棚卸資産の調整額△4百万円及びその他の調整額361百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に決算時における海外子会社からのノウハウ料相殺消去額であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が乏しいため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	144円30銭	168円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	14,736	17,247
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	14,736	17,247
普通株式の期中平均株式数(千株)	102,129	102,128

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第72期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)中間配当については、2019年10月31日開催の取締役会において、2019年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 4,087百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 40円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2019年12月5日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月13日

東洋水産株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永 峯 輝 一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金 子 能 周

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東洋水産株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東洋水産株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。